



OKAYAMA UNIV.

岡山大学病院

OKAYAMA UNIV. HOSPITAL

SEASONAL EXPRESS Vol. 12

2014 / Winter

|| 新しい病院像を求めて

Contents

- 🌀 Junko Fukutake Hall 完成
- 🌀 楳の木賞表彰が行われました
- 🌀 てんかんセンターの設置について



© Hirofumi Makino

D51 / 撮影: 榎野博史 病院長 (岩手県 小岩井農場)

🌀 就任あいさつ

佐藤 修平 (小児放射線科長)

このたび、榎野病院長、森島教授、金澤教授をはじめとする多くの皆様のご高配により、岡山大学病院小児医療センターに小児放射線科を開設することができました。小児医療における画像診断の重要性は増しており、岡山大学病院においても年間1000例を超える小児のCT、MRI、核医学検査を実施しています。小児放射線を専門とする放射線科専門医を

育てることが急務であると考えています。また放射線検査の増加によって無駄な医療被ばくの増加がないようなシステムを構築していく必要があります。更に将来計画されている粒子線治療は小児がん患者にとって福音となることが期待されており、それに向けた準備を進めています。今後ともご指導、ご支援をよろしく願い申し上げます。



🌀 Junko Fukutake Hall 完成

昨年11月に岡山大学鹿田キャンパス内にJunko Fukutake Hallが完成しました。これは、福武教育文化振興財団副理事長の福武純子氏から寄付を受けた建物で、フランスのルーブル美術館別館を設計した建築家ユニット「SANAA(サナア)」が設計を担当。外壁をガラス張りにすることで、ホールの中で行われているイベントの様子が外からも見ることが出来、市民公開講座や研究成果の発表、コンサート等に利用されており、「地域に開かれた大学」として、岡山大学と地域を繋ぐ架け橋となっています。



コンサート等のイベント情報・施設利用申込み・詳細は、
<http://j-hall.med.okayama-u.ac.jp> に掲載されています。

新看護師長紹介

岩谷 美貴子 看護師長

昨年4月に東3ICU・CICUの看護師長に就任いたしました。当部署は、「集中治療中の患者さま・ご家族に満足いただけるようなケアが提供できるチーム;good ICU」を目指しております。これは、望ましいコミュニケーションによるチームワークの高さと、高い実践能力による安全で質の高いケアが提供でき、患者・家族そして私たち自身も満足するICUであります。そのための

チーム作り、パフォーマンスの可視化に取り組んでいるところです。手術件数1万件、あるいは臓器移植件数の多い岡山大学病院において、周術期管理は患者さまの回復に大きな影響を与えます。主科・集中治療医・様々なメディカルスタッフと一丸となって、患者さまの回復・救命のために尽力致します。何卒ご指導頂きますようお願い申し上げます。



TOPICS

岡山大学病院長賞(楷の木賞)表彰

平成26年1月7日に第3回岡山大学病院長賞(楷の木賞)の表彰状授与式がJunko Fukutake Hallで行われ、200名を超える鹿田地区職員が見守る中、個人賞は3名、チーム賞は4チームにそれぞれ表彰状、副賞及び榎野病院長撮影の写真集が授与されました。

この賞は本院における医療又は病院経営の改善に関して秀でた貢献をした個人又はチームを表彰し、職員の意欲の高揚を図ることを目的としており、表彰の対象者は、医員、看護職員、医療技術職員、その他職員等のなかの主に若手職員としています。



表彰を受けるCT検査室チーム

第3回岡山大学病院長賞(楷の木賞)受賞者・受賞チーム

個人

- ・卒後臨床研修センター[医員(研修医)] 高橋 順子
- ・医療情報部[助教] 黄 勇
- ・腎臓・糖尿病・内分泌内科[医員(レジデント)] 平松 澄恵

チーム

- ・頭頸部がんセンター 歯科診療チーム 歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士
- ・CT検査室チーム 医師・放射線技師・看護師・事務職員
- ・入院棟東5階スタッフ 看護師・看護助手
- ・医療材料価格交渉チーム 事務職員

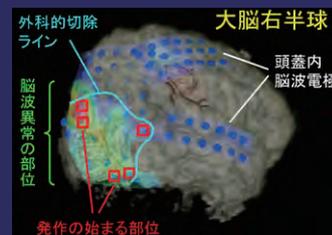
ご存じですか?

伊達 勲 岡山大学病院てんかんセンター長・副病院長

【岡山大学病院内に「てんかんセンター」が設置されました】

てんかんで苦しんでいる方々は日本で100万人以上いると言われています。しかし高度に専門的な診療ができる病院はまだ限られているため、てんかんセンターを中国・四国地区に設立して欲しいという声が多く寄せられていました。岡山大学病院ではこれまで小児神経科、脳神経外科、神経内科、精神科神経科、救急科、放射線科などがそれぞれてんかんの診療に関わってきました。このたび高まる社会的要請を受けて、一層緊密な連携を実現して診療

のレベルを上げるために、岡山大学病院内にてんかんセンターが設置されました。患者の皆様適切な内科的、外科的治療を提供し、国内のてんかん診療の拠点の一つとなるべく努力して参ります。ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



頭蓋内電極でてんかん波を正確に捉え、外科的切除範囲を決めます。

看護部長からヒトコト

保科 英子 看護部長

箱根駅伝

正月2、3日のテレビといえば、箱根駅伝ですね。若干の早起きと昼食の時間を調整しつつ今年は、結構がつつりと見ました。結果は、東洋大学が歴代2位の記録で柏原竜二の卒業以来2年ぶりの総合優勝を果たしました。ゴールの瞬間は東洋大学の選手1人1人がチームで定めた目標達成のよこぎりに満ちあふれていました。一方、2位以下、駒沢大学、日本体育大学、早稲田大学の選手のゴールは何とも言いようがなくしんみりしていました。1位でなければ意味がないというような顔でした。そんな中、青山学院大学は違っていました。

青山学院大学は第88回大会(2012年)と並ぶ過去最高タイの5位に入りました。10人目の選手竹内一輝は笑顔のガッツポーズでゴールし、それを迎える選手たちも笑顔、自然なよこぎりにテレビを見ている私もほっとしました。同じ土俵で勝負する限り1位2位という順序は必ずついてきます。だからこそ、どういう結果であったかよりも、その土俵でどういう自分であったかを、誇る自分でありたいな、と新年にふっと思うのでした。



ほしな

患者さんへ届けたい 医療安全の言葉

安全な入院生活、治療を行っていくには、患者さん・ご家族の参加が必要となります。薬や処置の確認など、私たちと一緒にお願いします。
良かった事や危ないと思った事、小さな事でも「気づき」があれば教えてください。

看護師 より